



ロタウイルス学術講演会

ロタウイルス胃腸炎の実際と ロタウイルスワクチンに期待すること



ロタウイルス胃腸炎を予防するロタウイルスワクチン（製品名：ロタリックス[®]内用液）が、日本でもようやく接種可能になった。ロタウイルスワクチンは、生後早期に接種を完了させる必要があることから、小児科だけではなく、産婦人科からの情報提供が重要となる。そこで2011年11月、愛知県の小児科医会と産婦人科医会はロタウイルス学術講演会を共催した。ロタウイルス感染症とその疾病負担、ロタウイルスワクチンの有効性、小児ワクチンの接種スケジュール、妊娠中のワクチン教育などについて、エキスパートの先生方から概説いただいた。

妊娠中から始める 母親へのワクチン教育



座長
愛知県小児科医会 会長
北條 泰男 先生



演者
若葉台クリニック 副院長
鈴木 正利 先生

図1 産婦人科・予防接種専用待合室の壁面



記事やポスターと一緒に記念写真なども掲示。パソコンは自由に使用できる。

待合室は情報発信基地として 最大限活用

当院は小児科に産婦人科を併設したクリニックである。産婦人科は外来診療のみで分娩は行っていないが、妊娠中から出産後の母子および小児のケアが連携できる。予防接種は産婦人科で担当し、診療とは別の時間帯で行っている。産婦人科・予防接種専用の待合室は情報発信基地と考え、各種ワクチンのポスターやワクチン接種スケジュール、新聞の切り抜きや日本小児科学会の見解などを壁一面に貼っている。また、パソコンを設置し、子どもたちがアニメやゲームを楽しめるようにもしている（図1）。一般の待合室についても様々な情報を掲示し、資料も整理して箱に入れ、持ち帰りしや

